

平成8年8月15日

見えない敵から区民を守れ！

区立幼・小・中学校の児童・生徒の健康調査、区自前のO157検査等を実施

豊島区O157対策連絡会議

8月15日午前、豊島区^ホO157対策連絡会議は、第6回目の会議を開き、各課で行っているO157の対策について以下の項目を確認した。

(1)区立幼・小・中学校の児童・生徒の健康調査結果について

7月31日から8月7日にかけて行われた、区内全校の児童生徒を対象とした夏休み中の健康調査の調査結果がまとまった。調査対象12,213名のうち10,630名(87%)の回答を得た。調査時点で下痢、腹痛といった症状のみられる者が64名いたが、血便等O157の感染の疑われるケースはなかった。また、現時点では、近隣医療機関からの届出もない。下痢、腹痛といった症状がみられた者については、引続きその後の経過を確認し、健康状況を把握していく。

詳細は別紙のとおり

(2)2学期の学校給食開始にあたっての対応

区立小中学校でのO157による食中毒防止のため、①給食従事職員の検便検査にO157検査を加えて夏休み中に実施し、9月以降についても当面来年3月まで毎月2回実施する ②従来生で食べていた野菜は完全熱処理し、加熱調理した献立を工夫する ③調理食品の中心温度測定用温度計を各校に備える ④給食室内の手洗い用蛇口を直接手指が触れないレバー式に取り替える、といった対策を強化していく。なお、検食保存専用の冷凍庫は、全小中学校について既に発注し、8月中には設置の予定である。

(3)区自前のO157検査を実施

豊島区では、区自前の検査体制を整え、8月5日から長崎保健所衛生検査課で病原性大腸菌O157血清型検査を実施している。8月13日までに、検査希望者603名の検便検査を行い、O157については全員陰性であった。

また、15日までに、小中学校の給食食材(11品目)の検査、保育園給食関係者(約140名)の検便、区立公園の砂場(5か所、25検体)の検査を行い、監視の強化に努めている。

(4)O157休日相談の実施状況

7月27日から池袋保健所で行われているO157休日相談では、6日間でのべ61件の相談があった。「下痢をしているが大丈夫か」「プールは安全なのか」「検便検査はどこでできるか」といった問合せが多く寄せられた。保健所では、相談内容に応じて、休日診療所を紹介するなどの対応を行った。

(5)O157に関するパンフレットを作成、配布

「病原性大腸菌O157コンパクト情報」を5000セット作成し、12日より区内公共施設に配布し、啓発につとめている。

参考資料：別紙あり

詳細：保健計画課長

区立幼・小・中学校における
児童生徒の健康状況調査結果

另リ糸氏

- (1)調査目的 ①学校給食等を共通項とした0-157 の集団的感染の兆候の把握
②夏季休業中の児童・生徒の健康状況 (0-157 個別発症の有無の把握)
- (2)調査期間 7/20以降の全児童生徒の健康状況を7/31から8/7 までの間に調査。
- (3)調査対象者 区立幼、小、中の全児童・生徒 12, 213名
(内訳) 幼稚園 134名 (3園)
小学校 8375名 (29校)
中学校 3704名 (13校)
- (4)調査方法 電話等による聴き取り。
- (5)調査回答 10, 630名 (回答率87%) (A)
(内訳) 幼稚園 106名 (回答率79%)
小学校 7336名 (回答率87%)
中学校 3188名 (回答率86%)
- (6)下痢、腹痛等の症状があった者—計681名 (Aに占める割合 6.4%)
既に症状が治まっている者617名、調査時点で現に症状のある者64名。
(内訳) 幼— 10名 (9.4%)、受診 4名、治癒 9名、有症状 1名
小— 474名 (6.5%)、受診79名、治癒435名、有症状39名
中— 197名 (6.2%)、受診14名、治癒173名、有症状24名
計 681名 97名 617名 64名
- (7)分析結果
- ① いずれの学校においても、有症者の発生時期が散発的であり、学校給食等を共通項とする0-157の集団的感染の兆候は見られない。
- ② 症状があった者の大半は既に症状が治まって数日を経過しており、また、調査時点において現に症状のある者についても血便等の症状はない。また、医師会の協力による調査によっても、疑わしい症例の報告もない。したがって、現時点で個別感染が疑われるようなケースは見られない。
- (7)今後の対応
- ① 現に症状のある者について、その後の健康状況、医療機関への受診の有無とその結果等を確認する。
- ② すでに症状の治まっている者についてもその後の経過を確認する。